

土木学会誌の原稿について

1. 土木学会誌編集委員会よりの依頼

下記のような依頼が後藤委員長宛にあり、対応した。

2006 年 6 月 27 日

火山工学研究小委員会

委員長 高橋和雄先生

土構造物の性能評価に関する研究小委員会

委員長 飯塚 敦先生

斜面工学研究小委員会

委員長 後藤 聡先生

土木学会地盤工学委員会

関口 秀雄

土木学会誌「ステイト オブ ジ アート」欄 原稿執筆に関するお願い

冠省

このたび土木学会誌編集委員会より、地盤工学委員会に「ステイト オブ ジ アート」欄執筆の依頼がまいりました。地盤工学に関わる情報を会員諸氏に発信する佳き機会ですので、委員会としてお引き受けした次第です。

つきましては、活発な学術活動を推進しておられます貴研究小委員会より、インパクトのある記事を下記要領にてご執筆くださいますよう、お願い申し上げます。

これをうけて、河井幹事と関口で、全体として 2 ページの読み物にまとめさせていただきます。

ご多忙とは存じますが、斯界のため何卒よろしく願いいたします。

草々

記

各研究小委員会からの寄稿要領

- 1) 文字数： 800 字程度 (カラーの図またはカラー写真を含む)
- 2) 提出期限： 8 月 31 日 (木)
- 3) 提出先： 関口秀雄宛 E-mail: sekiguch@rcde.dpri.kyoto-u.ac.jp

原稿は電子データでお願いいたします。

2. 斜面工学研究小委員会の原稿案

原稿内容は、最終的に地盤工学委員会で編集されるので、変更されるが、以下のような内容を関口委員長に送付した。

土木学会誌「ステート オブ ジ アート」原稿
地盤工学委員会 斜面工学研究小委員会

斜面工学研究小委員会の活動紹介

■ 斜面工学研究小委員会の活動紹介

アクティブな活動を展開中である。48 人の委員からなり、専門は、土木、地形・地質、植生、生態、砂防、森林、弁護士、不動産、NPO 等と幅広い。これらの委員を中心に、斜面に関する以下の一般書を出版した。

「知っておきたい斜面のはなし Q&A—斜面と暮らす—」

この一般書を刊行することにより、幅広い斜面の分野に対して委員会で共通の認識を持つことができ、以下のような研究や講習会等に大きく展開中である。

- ・「斜面は総合工学である！」という言葉キャッチフレーズに、活動している。
 - ・毎回の委員会でのさまざまな分野の方からの話題提供
 - ・都市における特徴的な斜面の巡検
 - ・土木学会平成 17 年度重点研究課題
「新潟県中越地震の斜面複合災害のモニタリングに関する研究」
 - ・全国大会での研究討論会
新潟県中越地震における「斜面複合災害」—総合的斜面工学からの検討—
 - ・「土砂災害から身を守る」講習会
—巨大化する台風、来るべき南海地震に対する斜面防災—
 - ・「知っておきたい斜面のはなし Q&A—斜面と暮らす—」に関する講習会
および太田秀樹教授による特別講演会
 - ・斜面と暮らす市民フォーラム（予定）
- 第 1 部 パネルディスカッション 斜面と暮らす
第 2 部 パネルディスカッション 市民と斜面

以下に、各論的に説明いたします。

■ 斜面は総合工学である！

一般書「知っておきたい斜面のはなし Q&A—斜面と暮らす—」の出版

日本は、山地の占める割合が大きく（約 70%）平地が少ないという国土の特徴を持つ。一言に斜面と言っても、宅地、道路・鉄道、森林、公園、山地、棚田、畑地等、と非常に幅広い。また斜面の成因も盛土、切土、自然斜面等がある。日本という国土を考える場合、太古の昔から人々は斜面と関わりあってきたことは明白である。毎年のように、梅雨・台

風等の豪雨により斜面が崩壊して、土砂災害が発生する。さらに、地震による斜面崩壊や土砂災害も発生する。

道路や鉄道等の斜面は、これまで、機能・維持管理およびコストを重視してきた。しかし、最近では斜面の多様性を考慮して、防災はもちろん環境、生態系、計画、景観等といった考えを入れた設計がなされつつある。斜面工学が総合科学であるゆえんである。

斜面工学が総合科学であることを説明するために、一般書「知っておきたい斜面のはなし Q&A—斜面と暮らす—」を平成 17 年 12 月に出版した。

■ 一般書「知っておきたい斜面のはなし Q&A—斜面と暮らす—」を出版



知っておきたい斜面のはなし Q&A—斜面と暮らす—，土木学会
(解像度の高い図は，出版事業課に問い合わせてください)

本書は 141 の Q&A があり、全て見開き 2 ページに収まっている。141 の Q&A は、以下の 5 つの大テーマで構成している。

- A. 総合科学としての斜面工学
- B. 防災からみた斜面
- C. 維持管理からみた斜面
- D. 環境・生態系からみた斜面
- E. 景観・計画からみた斜面

斜面災害の防災や斜面の維持管理に関する Q&A だけではなく、環境・生態系や景観・計画からみた斜面に関する Q&A があることに大きな特徴がある。このように斜面を総合的に捉えた一般書はあまり見当たらない。斜面災害の防災や予防が第一に重要なことは言うまでもないが、住宅地、道路・鉄道、森林、棚田、公園等が斜面に存在する以上、我々は斜面とうまく付き合い共存する必要がある。そこで、本書のサブタイトルを「斜面と暮らす」とした。

■ 委員会活動

委員会活動の内容は、そのほとんどを以下の web に公開している。毎回の委員会では、委員会内外から講演者を招き、ミニワークショップを開催している。

斜面工学研究小委員会の web

<http://www.jsce.or.jp/committee/fiban/slope/>

委員は主に公募により 48 名が参加している。専門は、土木、地形・地質、植生、生態、砂防、森林、弁護士、不動産、NPO 等と幅広い。

委員会の下に以下の WG を組織している。

- ・災害WG
- ・維持管理WG
- ・環境・景観・計画WG
- ・事例研究WG
- ・広報・普及WG

■ 土木学会平成 17 年度重点研究課題

以下の課題が平成 17 年度の重点研究課題に採択された。

「新潟県中越地震の斜面複合災害のモニタリングに関する研究」

—メカニズム、維持管理、景観、生態系、廃棄物等の総合的斜面工学からの検討—
成果報告書(pdf 版)は、上に示した斜面工学研究小委員会の web に公開している。

■ 全国大会での研究討論会

新潟県中越地震における「斜面複合災害」—総合的斜面工学からの検討—
地盤工学委員会 斜面工学研究小委員会 平成 18 年 9 月 22 日 立命館大学

平成 16 年 10 月 23 日に発生した新潟県中越地震による斜面災害は、第三紀層地すべり多発地帯の豪雪地域で発生したもので、今後の時間経過をおって、降雨や融雪および余震等の誘因が相乗的に影響する「斜面複合災害」が発生する可能性が高いと考えられる。一方 21 世紀の斜面工学は、斜面の力学的安定だけではなく、防災、維持管理、環境・生態系、景観・計画等の「総合的斜面工学」からの検討が必要である。そこで、地震直後の斜面災害の状況および融雪や降雨等を経た約 2 年間の状況について、総合的斜面工学の見地より現地調査を数回実施した。これらの現地調査結果を題材にして、これからの山間地での地震災害の軽減・予防や復旧・復興のあり方等について、広く討論する。



旧山古志村・東竹沢 (左:平成 16 年 10 月 29 日, 右:平成 17 年 5 月 13 日)

■ 委員会主催で開催した講習会等 (予定も含む)

「土砂災害から身を守る」講習会

—巨大化する台風, 来るべき南海地震に対する斜面防災—

平成 18 年 6 月 29 日 高松市

「知っておきたい斜面のはなし Q&A—斜面と暮らす—」に関する講習会

および太田秀樹教授による特別講演会

平成 18 年 5 月 11 日 土木学会 (東京)

斜面と暮らす市民フォーラム (予定)

平成 18 年 9 月 30 日 (土) 横浜市

第 1 部 パネルディスカッション 斜面と暮らす

第 2 部 パネルディスカッション 市民と斜面

平成 15 年度全国大会 研究討論会

二十一世紀の斜面工学の創生を目指して —防災・維持管理・環境・計画・景観—

平成 15 年 9 月 24 日 徳島大学

なお、ここで、以下のような注文をしておいた。

<是非強調して欲しい内容>

- ・多くの専門性を持つ委員からなり, 一般書を共同執筆して出版した。
- ・この一般書をもとに, いろいろな分野に展開中である。
- ・土木学会平成17年度重点研究課題「新潟県中越地震の斜面複合災害のモニタリングに関する研究」
- ・全国大会での研究討論会: 新潟県中越地震における「斜面複合災害」 総合的斜面工学からの検討
- ・「土砂災害から身を守る」講習会 巨大化する台風, 来るべき南海地震に対する斜面防災 -

- ・「知っておきたい斜面のはなしQ&A - 斜面と暮らす -」に関する講習会および太田秀樹教授による特別講演会
- ・斜面と暮らす市民フォーラム（予定）
 - 第 1 部 パネルディスカッション 斜面と暮らす
 - 第 2 部 パネルディスカッション 市民と斜面

<できれば強調してほしい内容>

- ・委員会活動について斜面のHPにほとんどの資料を公開していること
- ・重点研究課題の報告書（PDF版）も斜面のHPに公開していること